



地域情報紙「ぼとん」は3ヶ月に1回発行します。
ボランティア活動者の声やメッセージを届け、
つなぎ(ぼとん)ます。

題字・イラストは、若松町地区在住
の高木さんです。

福祉教育の取り組み

新宿区社会福祉協議会では、区内の小・中学校が行う福祉体験学習への企画協力や講師紹介を行っています。講師には、障害を持つ地域の方々や福祉関係団体、社会貢献活動を行っている企業などを、社協がつかないでいます。今回は各学校で取り組みを行った福祉体験学習の取り組みをご紹介します。

若松町地区

平成29年11月29日実施

車椅子体験

余丁町小学校×新宿区立障害者福祉センター トライ工房



車椅子介助の体験

体験学習の目的

4年生2クラス52人が対象。体験学習を通して、障害や障害のある方の生活や苦勞について理解し、自分たちにできることを考え、思いやりを持った行動ができるようになることを目的として実施しました。

授業内容

車椅子利用者の自己紹介後に身体障害についての講話がありました。その後障害者と健常者の違いや同じところを児童に考えてもらう質疑応答を行いました。体験では車椅子介助の方法や自走のコツを学んだり、言語障害を持つ方と車椅子に設置された音声装置を使った会話なども体験しました。

体験から学んだこと（担任より）

子どもたちは初めての車椅子体験に緊張もありましたが、楽しみながら真剣に取り組むことができました。すぐに学習の振り返りをしたいとの声があがったクラスでは、急遽5時間目に振り返りを実施しました。子どもたちは「障害者に対するイメージが変わった」「車椅子を使っている方の苦勞が分かった」「トライ工房の方に会ったら挨拶をしたい」など、様々な感想を話し合いました。

講師からの感想・意見

余丁町小学校での福祉体験授業は今年で7回目を迎えました。「講話」では子どもたちからの車椅子利用者への質問に答えるなど、障害者と健常者について一緒に考えてもらいました。また、乗り手・押し手の両方を体験する「車椅子体験」では、いつもの体育館を車椅子で動くとうどう違うかを体感してもらいました。保護者や民生委員さんにもご協力頂き、地域で支える授業を行うことができました。この授業で障害者を身近に感じてもらえたら嬉しいです。



講話と質疑応答の様子

☆ボランティア活動に関する相談やお問い合わせは、どうぞお気軽にお寄せください☆

大久保ボランティア・地域活動サポートコーナー

[場所]新宿区大久保2-12-7 大久保特別出張所内
[開庁時間]月～金曜日 午前10時～午後5時
[TEL/FAX]03-3209-8851

若松町ボランティア・地域活動サポートコーナー

[場所]新宿区若松町12-6 若松町特別出張所内
[開庁時間]月～金曜日 午前10時～午後5時
[TEL/FAX]03-6380-2204

視覚障害者による講話と体験

大久保小学校×(株)アクトコール 木暮雅寿氏

体験学習の目的

4年生25人が対象。体験学習を通し相手の立場になって物事を考えられる「思いやり」の気持ちを身につけること、障害に対するネガティブなイメージを払拭したいという目的で実施しました。

実際の授業内容（担任より）

木暮さんの自己紹介では、目が見えない一人暮らしの木暮さんが洗濯や料理まで自分で行うことに、子どもたちからは驚きの声が上ががり、熱心な質疑応答がなされました。アイマスクをつけて体操着をたたむ触覚体験や、小銭がぶつかる音を聞き分ける事によって10円、100円など小銭の種類を当てる聴覚体験を行いました。



子どもたちからの
質疑応答の様子

体験から学んだこと

木暮さんの講話や体験を通じ、「見えない世界」について子どもたちが想像できる範囲で理解しようと努力し、相手の立場になって考えてみました。現在、今回の体験学習のまとめとしてどのようなことができるかを相談・計画中です。



アイマスクをつけ
体操着をたたむ体験

講師からの感想・意見

子どもたちは反応がよく、やりがいをもって福祉教育に関わっています。視覚障害者のために何ができるかを考えるまではなかなか難しいのですが、まずはコミュニケーションを多く取って自分を知ってもらう中に「障害」が存在するという事だいいと思っています。十人十色の人間一人一人にフォーカスしなければ、障害の理解は難しいです。できればその地域に住んでいる障害者が、関心を持って福祉教育に取り組むことが良いと感じています。

聴導犬体験 西戸山小学校×一般社団法人 日本聴導犬推進協会

体験学習の目的

5年生2クラス65人が対象。体験学習を通し「みんなにとってやさしいまち」を考えるきっかけとなることを目的に実施しました。

授業内容（担任より）

聞こえないことの大変さや聴導犬の仕事を勉強したあと、実際に聴導犬が目覚まし時計やインターフォンの音、落とし物を教えるデモンストレーションを体験しました。デモンストレーションには、児童の代表者2名が聴覚障害者として参加しました。授業の最後には全員で手話を勉強し、簡単な挨拶ができるようになりました。



聴導犬がインターフォンが鳴ったことを知らせる様子を体験

体験から学んだこと

聴導犬については事前に調べ学習をしていましたが、実際にデモンストレーションによって聴導犬が果たす役割を見ることによって、聴覚障害への理解も深まり、「みんなにやさしいまち」について考えるよいきっかけになりました。



古タオルの
寄附をしました

講師からの感想・意見

事前に質問を考えておいてもらったこともあり、児童から積極的に質問をもらったため、聴導犬についていつも以上に詳しい内容をお伝えすることができました。子どもたちが楽しそうに体験しお話を聞いてくれたので、こちらも嬉しかったです。当日は、児童からたくさんの古タオルの寄附をいただきました。聴導犬育成のために使用させていただきます。ありがとうございました。